第６章

～就職支援プログラム・講座企画～

1　企業が新卒採用の際に求める能力と重視するもの

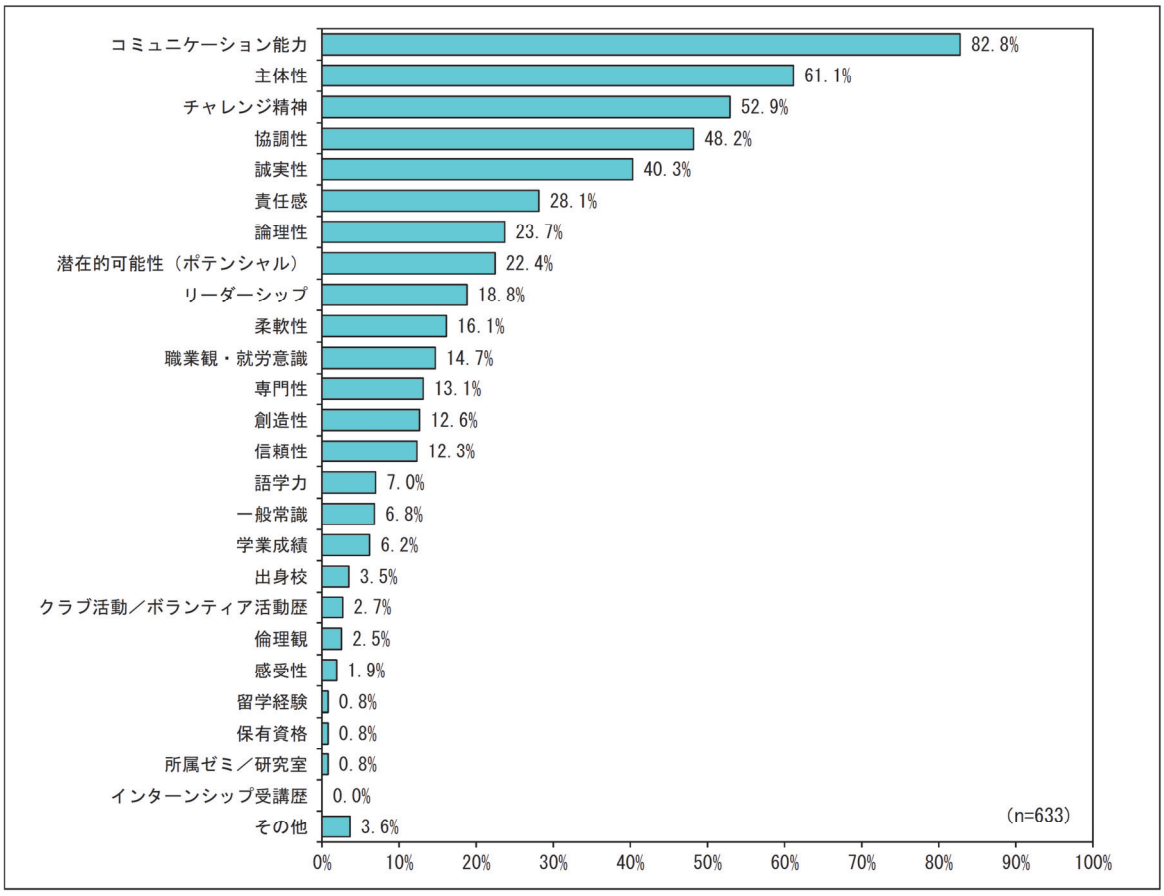
(1)　求める能力

①　日本経済団体連合会

・日本経済団体連合会会員の企業が、2013 年（平成 25 年）4 月入社の新規学卒者を採用する際に重視した事項としては、「コミュニケーション能力」が 82.8%と最も高く、次いで「主体性」が 61.1%、「チャレンジ精神」が 52.9%、「協調性」が 48.2%等の順になっている。

・企業が新規学卒者に求める能力として、近年、「コミュニケーション能力」の他、「チャレンジ精神」「潜在的可能性」「柔軟性」等、企業構造を取り巻く環境の急激な変化に対応する能力が重視されている。

【企業が選考するに際して重視した項目】



(資料出所：日本経済団体連合会「新卒採用（2014 年 4 月入社対象）に関するアンケート調査」2014 年 9 月)

無断複製・頒布を禁じます

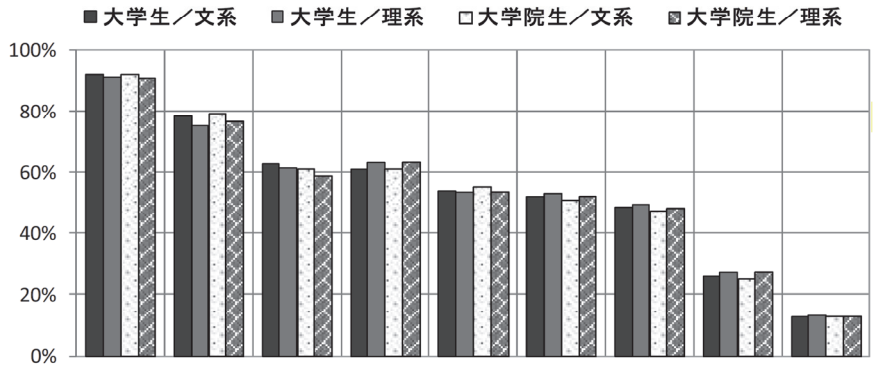
② 経済同友会

【面接段階で重視する資質、能力、経験】

a.意識・性格的要素

学歴、文系理系を問わず、１位「コミュニケーション能力」、（上位５位合計では）２位「行動力・実行力」、３位「性格、人柄」もしくは「粘り強さ、ストレスコントロール能力」で、概ね共通している。ただし、１位のみで集計した結果に注目すると、「志望動機」を１位に挙げる企業も約２割存在する。

≪上位5位の合計≫



	コミュニケーション能力（チームワーク力・協調性等）	行動力・実行力	性格・人柄	粘り強さストレスコントロール能力	柔軟性（変化に対応できる能力）	仕事に対する意欲企業への貢献	志望動機	将来性	職業観キャリアデザイン
大学生／文系（N=211）	91.9%	78.2%	62.6%	61.1%	54.0%	52.1%	48.8%	26.1%	12.8%
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
大学生／理系（N=211）	91.0%	75.4%	61.6%	63.0%	53.6%	53.1%	49.3%	27.5%	13.3%
	1位	2位	4位	3位	5位	6位	7位	8位	9位
大学院生／文系（N=194）	92.3%	79.4%	61.3%	61.3%	55.2%	51.0%	47.4%	25.3%	12.9%
	1位	2位	3位	3位	5位	6位	7位	8位	9位
大学院生／理系（N=203）	91.1%	76.8%	59.1%	63.5%	53.7%	52.2%	48.3%	27.6%	12.8%
	1位	2位	4位	3位	5位	6位	7位	8位	9位

≪1位のみで集計≫

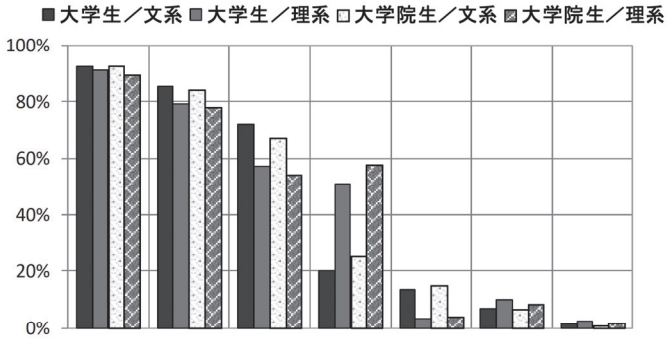
大学生／文系（N=211）	28.0%	14.2%	15.2%	1.9%	0.9%	12.8%	21.3%	4.7%	0.9%
	1位	4位	3位	7位	8位	5位	2位	6位	8位
大学生／理系（N=211）	28.9%	13.3%	14.2%	2.4%	0.9%	13.3%	21.8%	4.3%	0.9%
	1位	4位	3位	7位	8位	4位	2位	6位	8位
大学院生／文系（N=194）	29.4%	14.4%	12.9%	1.5%	1.0%	13.4%	21.1%	5.2%	1.0%
	1位	3位	5位	7位	8位	4位	2位	6位	8位
大学院生／理系（N=203）	28.6%	13.8%	13.8%	2.5%	1.0%	13.3%	21.7%	4.4%	1.0%
	1位	3位	3位	7位	8位	5位	2位	6位	8位

無断複製・頒布を禁じます

b.能力的要素

１位「論理的思考力」、（上位３位合計では）２位「課題発見・解決力」、３位「自己ＰＲ力、自己分析力」で概ね共通している。ただし、理系では「学生時代に学んだ専門知識・研究内容」が文系に比べて明らかに重視されている。特に製造業は、エントリーシート段階と同様、理系に対して「学生時代に学んだ専門知識・研究内容」を重視している。

≪上位3位の合計≫



	論理的思考力	課題発見・解決力	自己ＰＲ力 自己分析力	学生時代に学んだ専門知識・研究内容	語学力	学業成績	資格（語学力以外）
大学生／文系	92.4%	85.3%	72.0%	20.4%	13.7%	7.1%	1.9%
（N=211）	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
大学生／理系	91.0%	79.1%	57.3%	51.2%	3.3%	10.0%	2.4%
（N=211）	1位	2位	3位	4位	6位	5位	7位
大学院生／文系	92.8%	84.5%	67.0%	25.3%	14.9%	6.7%	1.0%
（N=194）	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
大学院生／理系	89.7%	78.3%	54.2%	58.1%	3.9%	8.4%	2.0%
（N=203）	1位	2位	4位	3位	6位	5位	7位

≪1位のみで集計≫

大学生／文系	37.9%	28.0%	29.9%	2.4%	1.9%	－	－
（N=211）	1位	3位	2位	4位	5位	－	－
大学生／理系	36.5%	25.1%	22.7%	14.7%	0.5%	0.5%	－
（N=211）	1位	2位	3位	4位	5位	5位	－
大学院生／文系	39.2%	27.3%	27.8%	3.6%	2.1%	－	－
（N=194）	1位	3位	2位	4位	5位	－	－
大学院生／理系	36.0%	23.6%	21.2%	18.2%	0.5%	0.5%	－
（N=203）	1位	2位	3位	4位	5位	5位	－

≪大学生/理系のみ：上位3位の合計≫

製造業	38.6%	75.9%	88.0%	72.3%	13.3%	4.8%	－
（N=83）	4位	2位	1位	3位	5位	6位	－
非製造業	69.8%	81.7%	92.9%	37.3%	7.1%	2.4%	4.0%
（N=126）	3位	2位	1位	4位	6位	5位	7位

≪大学院生/理系のみ：上位3位の合計≫

製造業	34.9%	75.9%	85.5%	79.5%	10.8%	6.0%	－
（N=83）	4位	3位	1位	2位	5位	6位	－
非製造業	67.8%	80.5%	92.4%	43.2%	5.9%	2.5%	3.4%
（N=118）	3位	2位	1位	4位	5位	6位	7位

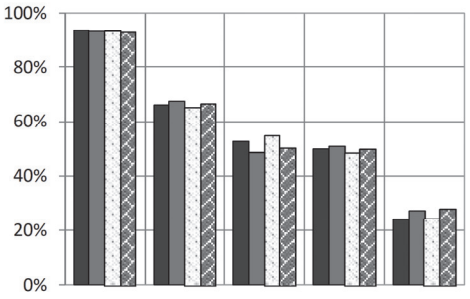
無断複製・頒布を禁じます

c.経験的要素

「サークルや体育会等の活動」が１位で突出している。（上位３位合計では）２位が「アルバイト経験」、３位は「海外経験」あるいは「ボランティア等の社会活動経験」である。学歴や文系理系で傾向の違いはあまりない。また、製造業は非製造業に比べて、どの学生区分でも「海外経験」を重視する傾向が明らかに高いことも確認できた（上位３位の合計でいずれも 20%高い）。

■大学生／文系■大学生／理系□大学院生／文系▨大学院生／理系

≪上位3位の合計≫



	サークルや体育会等の活動	アルバイト経験	海外経験	ボランティア等の社会活動経験	企業等でのインターンシップ経験
大学生／文系	93.8%	66.1%	52.6%	50.0%	24.0%
(N=192)	1位	2位	3位	4位	5位
大学生／理系	93.2%	67.7%	48.4%	51.0%	27.1%
(N=192)	1位	2位	4位	3位	5位
大学院生／文系	93.2%	64.8%	54.5%	48.3%	24.4%
(N=176)	1位	2位	3位	4位	5位
大学院生／理系	92.4%	66.3%	50.0%	49.5%	27.7%
(N=184)	1位	2位	3位	4位	5位

≪1位のみで集計≫

大学生／文系	69.3%	6.3%	16.1%	4.7%	3.6%
(N=192)	1位	3位	2位	4位	5位
大学生／理系	72.4%	6.3%	12.5%	4.2%	4.7%
(N=192)	1位	3位	2位	5位	4位
大学院生／文系	68.2%	5.7%	17.6%	5.1%	3.4%
(N=176)	1位	3位	2位	4位	5位
大学院生／理系	71.2%	6.0%	13.6%	4.3%	4.9%
(N=184)	1位	3位	2位	5位	4位

≪大学生/文系のみ:上位3位の合計≫

製造業	93.2%	61.6%	67.1%	43.8%	23.3%
(N=73)	1位	3位	2位	4位	5位
非製造業	94.0%	69.2%	43.6%	53.0%	24.8%
(N=117)	1位	2位	4位	3位	5位

≪大学生/理系のみ:上位3位の合計≫

製造業	91.8%	65.8%	61.6%	42.5%	27.4%
(N=73)	1位	2位	3位	4位	5位
非製造業	94.0%	69.2%	40.2%	55.6%	27.4%
(N=117)	1位	2位	4位	3位	5位

（資料出所：経済同友会「企業の採用と教育に関するアンケート調査結果（2014 年調査）」2014 年 12 月）

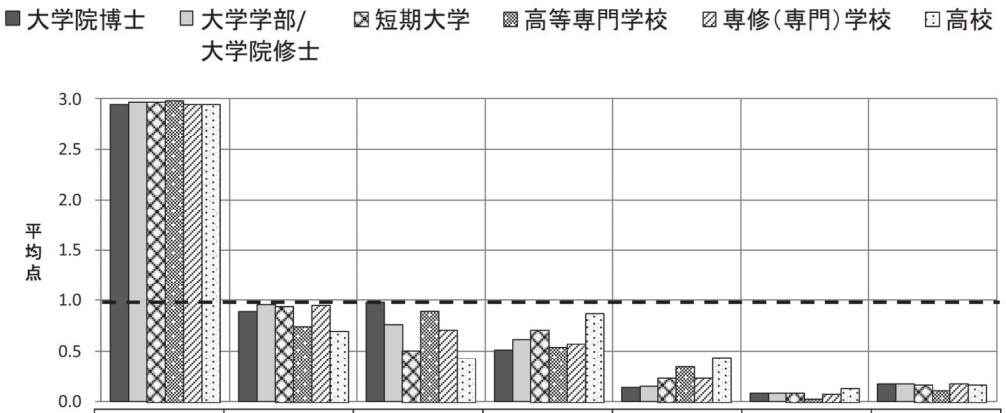
無断複製・頒布を禁じます

(2)　重視するもの

・企業が大学学部卒業者及び大学院修士課程修了者を選考する際に重視するものとしては、「面接」が 2.97 で第 1 位であり、次いで「適性検査（SPI 等）」が 0.96、「学校での専攻分野・研究内容」が 0.76 の順になっている。

・　その他、複数企業から回答があった項目としては、「エントリーシート」、「学業やその他のことで注力したことや熱意を持って取り組んだこと」、「グループディスカッション」等が挙げられる。

【企業が新卒採用の選考で特に重視するもの】



	面接	適性検査（SPI等）	学校での専攻分野／研究内容	筆記試験	学校での成績	出身校	その他
大学院博士課程修了（N=148）	2.94	0.89	0.98	0.51	0.14	0.08	0.17
	（1位）	（3位）	（2位）	－	－	－	－
大学学部卒業／大学院修士課程修了（N=225）	2.97	0.96	0.76	0.61	0.14	0.08	0.17
	（1位）	（2位）	（3位）	－	－	－	－
短期大学卒業（N=90）	2.98	0.94	0.51	0.72	0.24	0.09	0.17
	（1位）	（2位）	－	（3位）			
高等専門学校卒業（N=94）	2.98	0.75	0.90	0.55	0.30	0.04	0.12
	（1位）	（3位）	（2位）	－	－	－	－
専修(専門)学校卒業（N=74）	2.94	0.96	0.72	0.58	0.24	0.08	0.18
	（1位）	（2位）	（3位）	－	－	－	－
高校卒業（N=82）	2.95	0.71	0.44	0.87	0.45	0.14	0.17
	（1位）	（3位）	－	（2位）	－	－	－

（注）1位3点、2位2点、3位1点として、新卒者の最終学歴区分ごとに回答者数で加重した平均点。

（資料出所：経済同友会「企業の採用と教育に関するアンケート調査結果（2012 年調査）」2012 年 11 月）

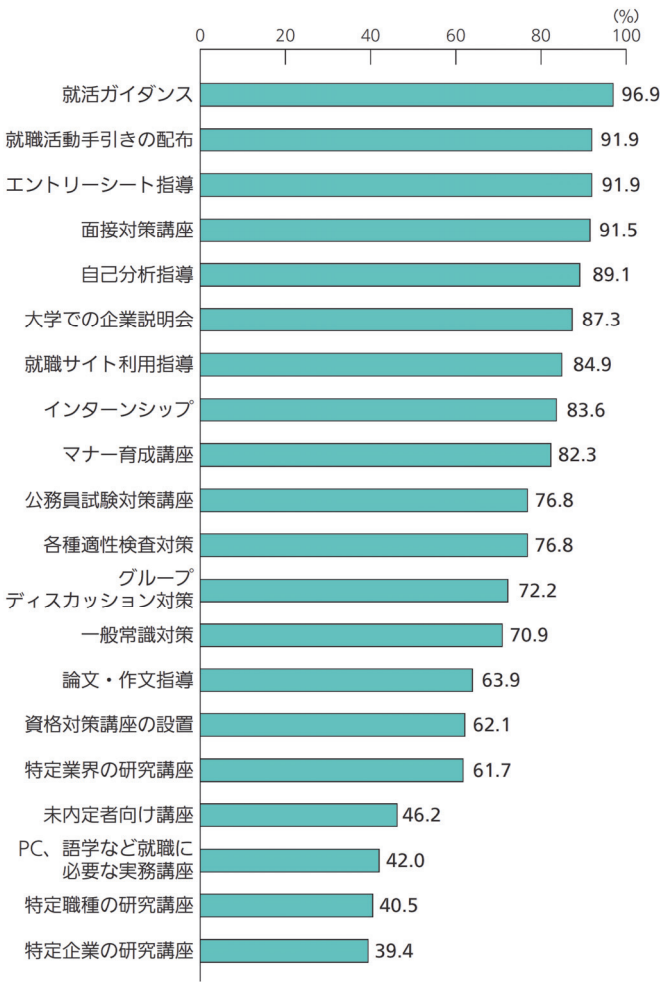
無断複製・頒布を禁じます

2 各大学におけるキャリア形成支援の実施状況

・2011 年度（平成 23 年度）に各大学が実施した就職支援の内容としては、「就活ガイダンス」が 96.9%と最も実施率が高く、次いで、「就職活動手引きの配布」と「エントリーシート指導」が 91.9%、「面接対策講座」が 91.5%等の順になっている。
・就活ガイダンスは、「1 年から実施している」大学が 18.7%、「2 年生を対象としている」ものが 27.8%、「3 年生を対象としている」ものが 95.5%となっている。多くの大学で早期（1 年や 2 年）から実施されているものは、「ＰＣ・語学等、就職に必要な実務講座」や「資格対策講座の設置」である。

【就職支援の実施状況】

キャリアセンター長



(%)

	平成 21 年度実施（件数）	対象学年 1年	2年	3年	4年
就活ガイダンス	443	18.7	27.8	95.5	45.1
就職活動手引きの配布	420	8.8	9.0	93.6	17.6
エントリーシート指導	420	2.9	6.0	95.0	37.9
面接対策講座	418	2.6	7.7	92.6	39.2
自己分析指導	407	9.6	15.5	93.9	27.8
大学での企業説明会	399	5.5	10.8	92.5	50.1
就職サイト利用指導	388	4.6	7.2	94.1	20.6
インターンシップ	382	18.6	56.0	95.5	21.7
マナー育成講座	376	11.2	20.5	93.4	23.1
公務員試験対策講座	351	45.6	68.4	95.7	45.9
各種適性検査対策	351	18.2	27.1	92.9	16.8
グループディスカッション対策	330	3.3	8.2	95.2	28.5
一般常識対策	324	15.4	26.5	95.7	23.8
論文・作文指導	292	7.9	11.0	88.4	44.9
資格対策講座の設置	284	72.2	80.6	91.5	71.8
特定業界の研究講座	282	16.7	25.9	94.0	21.3
未内定者向け講座	211	0.0	0.0	7.1	91.5
PC、語学など就職に必要な実務講座	192	78.6	83.9	89.1	68.8
特定職種の研究講座	185	19.5	30.8	89.2	23.8
特定企業の研究講座	180	16.7	25.0	92.2	22.8

注）対象は各大学のキャリアセンターまたは就職部門長457人。
「キャリア教育・就職支援の現状と課題に関する調査」（2010）

注１）表の値は、各就職支援を「実施している」と回答した件数に占める%。複数回答。
注２）網かけは各取り組み別にもっとも高い値を示す。

（資料出所：ベネッセ総合教育研究所「大学データブック 2012」73 頁 2012 年 3 月）

無断複製・頒布を禁じます

3 学生のキャリア形成支援における課題

(1) 学生の就職活動にみられる変化

・未就職卒業者割合の低い大学より未就職卒業者割合の高い大学が学生の就職活動にみられる変化を感じているのは、「心理的負担を強く感じる学生が増えた」「キャリア・センターで斡旋できる求人が少なくなった」「学生がインターネットの情報に頼りすぎるようになった」「就職活動を途中でやめる学生が増えた」である。

【学生の就職活動にみられる変化】

単位：%

	10%未満 N=88	10～30%未満 N=262	30%以上 N=137
就職活動への取り組み状況の個人差が大きくなった	29.5	39.7	43.1
心理的負担を強く感じる学生が増えた+	**22.7**	**36.3**	**37.2**
学生の就職活動への取り組みが早くなった	30.7	29.4	27.0
学生の相談が増えた	25.0	27.1	21.9
キャリアセンター(就職部)で斡旋できる求人が少なくなった***	**9.1**	**29.0**	**26.3**
学生がインターネットの情報に頼りすぎるようになった*	**15.9**	**22.9**	**29.9**
経済的負担を強く感じる学生が増えた	14.8	15.6	18.2
就職活動を途中でやめる学生が増えた*	**6.8**	**13.4**	**20.4**
大学主催の就職支援行事への出席率が高くなった*	22.7	12.6	10.2
学生がOB/OG訪問をしなくなった	2.3	10.7	10.9
学生の希望が有名企業に集中するようになった	4.5	8.0	10.2
学生の授業への出席率が低下した	3.4	3.4	5.1
学生の就職活動状況が把握できなくなった	0.0	1.9	5.1

注：太字は未就職卒業者の割合が高い大学のほうが「そう思うが多い」傾向が強い項目、下線は低い大学のほうが少ない傾向が強い項目を示す（記号は、+ p<0.1, * p<0.05, **<0.01,***p<0.001 水準でそれぞれ統計的に有意な差があることを示す）。

（資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業者支援に関する調査」2010年8月）

(2) 就職先を決定するに当たって重視する基準におけるギャップ

・キャリア・センターにおいて学生の就職支援をする際、学生が就職先を決定するに当たって重視する基準と、職員・スタッフが指導で重視する基準にギャップが見られる場合がある。

・未内定学生に特徴的な基準として多く挙げられたのは、「地域条件（勤務地・転勤の有無など）」「企業の知名度」「企業の業種・仕事内容」等である。未内定に終わる学生では、特にこれらが「こだわり」となっていることを示唆している。

無断複製・頒布を禁じます

【就職先を決定するに当たって重視する基準】

単位：%、N=491

	指導で重視する基準	学生が重視する基準	未内定学生に特徴的な基準
地域条件（勤務地・転勤の有無など）	30.3%	87.4%	62.5%
企業の知名度	8.8%	71.5%	53.2%
企業の業種・仕事内容	81.3%	79.6%	47.0%
勤務時間・休暇・福利厚生など	29.7%	68.8%	39.3%
賃金	24.8%	68.6%	38.1%
自己の能力・適性の一致	77.8%	49.9%	34.0%
正社員かどうか	80.2%	68.0%	32.4%
企業の将来性・安定性	55.6%	68.4%	31.0%
大学での専門分野との関連	53.2%	51.3%	24.2%
OB・OGの有無・定着度の高さ	59.1%	33.6%	6.9%
無回答	3.1%	1.4%	8.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

（資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業者支援に関する調査」2010年8月）

無断複製・頒布を禁じます

4 学生のキャリア形成支援を目的とした講座（講習）の企画と実施に向けた活動

企画書に必要な項目の例　　（モジュールA-２で使用）

(1) 大学及びキャリア形成支援の状況

大学の状況	大学におけるキャリア形成支援の実施状況	大学におけるキャリア教育の実施状況

(1) 講座（講習）の企画

① 目的と効果		
現状の分析	課題の把握	講座を実施する目的
キャリア形成支援における位置付け	他の講座との関係（過去の実施状況）	キャリア教育との関連
講座実施の効果		

② 概要		
実施日時	実施会場	担当講師
内容	実施形態	受講対象と参加人数
タイムスケジュール	必要なツール	効果測定（方法と評価）
実施にかかる経費		

③ 告知方法		
担当者	対象	媒体
方法	時期	

④ 他部署との連携・調整		
担当者	連携すべき部署	連携するために調整すべき事項

(2) 講座（講習）実施に向けた調整

調整が必要な部署名・役職名	調整すべき事項

(3) 講座実施の振り返り

効果の測定	改善点	今後への展望

(4) 講座終了後の対応

受講者への対応	（受講しなかった）学生への対応	キャリア・センターへの対応

無断複製・頒布を禁じます